学校だより
令和4年度2月号
なつのくも
第162号（R5．1．31）
練馬区立光が丘夏の雲小学校
本校ホームページ新QRコードです。スマホなどからも閲覧できます。ご活用ください。

「発想の外」からの発見

副校長　市村　大

１２月から１月にかけて、普段はなかなか会うことができない中高の同級生や大学の仲間、以前勤めていた学校の同僚・先輩と会う機会がありました。コロナ前は、この時期に年に１回だけ会うことが定番の人たちでしたが、コロナ禍でここ２年ほど会えなかった人たちもいました。この年末年始は、ほとんどの人と予定通りに会うことができ、本当に嬉しい気持ちになれました。

私は、この仲間たちと会うことを「年に一度の深呼吸」と自分で呼んでいます。日常の生活では、仕事や家族の用事に追われて、なかなか自分の思い通りになる時間がありません。それは、働いている人なら誰もがそうでしょう。それでも、年に一度くらいは時間を合わせて、お互いの生存確認をしようじゃないかというのが、集まる最大の目的です。再会している数時間は、中学時代・高校時代・大学時代・その時の勤務校時代に戻って、思い出話やお互いの近況報告をしています。普段は話せないようなことをたくさん話し、今の自分の立場も肩書も年齢も忘れて、その時代の空気に浸ります。思いっきり話し、１年分の英気を養い、「また来年！」と言って別れるのです。この時間が何よりも幸せで、この時間があるから「また１年頑張ろう」と思えるのです。

以前の勤務校の先生方はもちろん同業です。大学時代の仲間たちも、半分くらいは同業です。しかし、勤務している地域や学校が違うと、同じ「教員」でも、考え方が全く違うこともたくさんあります。そういう話をしていると、今自分が取り組んでいることが、実はすごく狭い視野で考えていることに気付かされたりします。そこで得られた情報が、新しい発想を生み出します。また、たくさん話すことで、普段自分が悩んでいることや、もやもやとしてまとまっていないことなどに、光が当たることがよくあります。そこから、新鮮な発想が生まれたりします。

教員同士でもそうなのに、これが他業種となると、本当に根底から発想が違うこともあります。仲が良い友達同士ですから、遠慮なく、時には耳に痛いことも言われます。でも、それはマイナスなことではありません。教育という、ある種特殊な業界だからこそ、他の職種となじまない部分ももちろんありますが、「教育界はそういうものだから」と言ってしまえば、そこに進化は生まれません。教育も社会全体の一部です。社会が変容すれば、教育も変容します。社会の流れを知り、他業種の取組を知ることは、教育の今後を見直す絶好の機会です。私は、こういう時間に、自分の発想の外から様々なことを言われることが、悔しくもあり、良い刺激にもなっています。

子供も大人も、基本的には自分の好きなことをしたいと思いがちです。嫌いなことをやろうと思う人は珍しいでしょう。同じように、基本的には自分と考えが近い人・自分にとって居心地の良い人を自然と近くに置いています。自分と考えが異なる人、意見が違う人は敬遠しがちです。でも、自分の居心地の良い範囲を自分で決めてしまって、そこにいるのが当たり前になってしまうと、それ以上の進化は望めないのです。特に子供時代は、ある程度強制的にでも、様々なことを経験し、様々な考えに触れた方がいい。経験の幅を広げないことには、そこから先の取捨選択すらできなくなります。自分の可能性を広げるためにも、自分の意志とは関係ない部分での経験値も必要だと思います。それこそ、思わぬ経験から、その人の一生が決まることもあるのですから。

大人になると、どこか意地っ張りになり、自分の意見を曲げにくくなります。これは、自戒の念を込めて書いています。だからこそ、意図的に、自分を今いる世界の外側に出すことにしています。そして、自分自身のことも客観的に見られるように気を付けています。それでもなかなか難しいことが多いのですから、一生修行ですね。

さて、最後にお知らせです。本校では２月６日(月)～８日(水)まで、光が丘夏の雲小学校令和４年度作品展「思いをつたえよう！夢をひろげよう！ひらけ！！アートのとびら」を開催いたします。図工の授業で作成したものを中心に、校舎内に各学年の作品を展示します。これはまさに、様々な発想が具現化されたものの集まりです。自分にはない発想に触れ、自分の幅を広げる絶好の機会です。子供たちだけでなく、保護者・地域の皆様にもぜひご覧いただきたいです。平日開催となりますが、皆様のご来校をお待ちしております。